平成 25 年 10 月 1 日　　第 236 号

平　塚　協　会　報

平塚協会報

発行所 公益社団法人 神奈川労務安全衛生協会 平塚支部 発行責任者 小笠原 仁志

平成25年度 全国労働衛生週間を迎えて

平塚労働基準監督署長　黒沢　武

今年も10月１日から10月７日まで、「全国労働衛生週間」が実施されます。「全国労働衛生週間」は、昭和25年に第１回が実施されて以来、今年で第64回を迎えます。
本年度は、

「健康管理　進める　広げる　職場から」

をスローガンに、事業場における労働衛生意識の高揚を図るとともに、自主的な労働衛生管理活動の一層の促進を図ることとしております。

さて、神奈川県下における労働衛生の現状について申し上げますと、平成24年における一般定期健康診断の結果、脳・心臓疾患につながる所見をはじめ何らかの所見を有する労働者の割合は、前年と比べ若干減少したものの、53.7%（全国平均52.7%）となっており、労働者の半数強が有所見という状況にあります。

神奈川労働局が行ったメンタルヘルス対策に関する自主点検の結果、メンタルヘルス不調により休業又は療養した労働者がいると回答した事業場の割合は４割を超えており、脳・心臓疾患事案や精神障害等事案における労災請求件数も高水準で推移しているところです。

一方、職業性疾病の件数は長期的には減少傾向にありますが、近年は横ばいとなっております。しかし、熱中症や酸素欠乏症等による死亡災害や一酸化炭素など化学物質との接触等による重大災害も発生しており、石綿関連疾患に係る労災請求件数も高水準で推移しています。

さらに、昨年には、印刷業の事業場において化学物質を使用していた労働者に、高い割合で胆管がんが発生していたことが大きな問題となりました。このような化学物質による健康障害等を防止するためには、印刷業に限らず、化学物質を取り扱うすべての事業場において、危険有害性等の情報に基づくリスクアセスメントやばく露防止対策の実施等、自律的な化学物質管理の徹底が必要です。

また、本年度を初年度とする第12次労働災害防止計画においては、健康確保・職業性疾病対策として、メンタルヘルス対策、過重労働対策、化学物質による健康障害防止対策、腰痛・熱中症予防対策、受動喫煙防止対策が掲げられ、それぞれ具体的な数値目標を設定して取り組むこととされています。

以上のような状況を踏まえますと、事業者の皆様方が、労働者の健康障害の防止、健康診断結果に基づく措置の実施の促進等に着実に取り組んでいただき、労働者の健康を確保することが是非とも必要です。

なお、胆管がんの問題では、「印刷事業場で発生した胆管がんの業務上外に関する検討会」報告書（平成25年３月14日）において、使用していた洗浄剤に含有する1,2-ジクロロプロパンの長期間にわたる高濃度ばく露が胆管がん発症の原因となった蓋然性が高いとされたことを踏まえて、労働安全衛生法施行令、労働安全衛生規則及び特定化学物質障害予防規則が一部改正され、平成25年10月１日から施行されることになっています。この改正では、1,2-ジクロロプロパンを表示対象物質に追加するとともに一定の健康障害防止措置を義務付けることとされました。

この「全国労働衛生週間」を機会に、職場のトップ、管理監督者、産業保健スタッフ、労働者がそれぞれの立場において、労働衛生管理活動に取り組んでいただき、自主的な労働衛生活動のより一層の促進を図ることをお願いいたします。

平成25年　労働衛生週間スローガン
健康管理　進める　広げる　職場から

労働衛生週間平塚地区促進大会

平成25年度「第64回全国労働衛生週間平塚地区促進大会」は『健康管理　進める　広げる　職場から』のスローガンのもとに、去る９月６日㈮平塚市中央公民館大ホールにおいて開催されました。

全国労働衛生週間は国民の労働衛生に関する意識を高揚させ、事業場における自主的労働衛生管理活動を通じ労働者の健康確保に大きな役割を果たしてきたところで、昭和25年から実施され本年で第64回を迎えることとなりました。

大会は平塚労働基準監督署黒沢署長による開会の辞から始まり、平塚落合市長の祝辞代読へと続き、平塚労働基準監督署山崎安全衛生課長による衛生週間の趣旨説明が行われました。

その後、第二部として災害防止４団体共催の「第57回平塚地区安全衛生大会」が、今年度は建設業労働災害防止協会神奈川支部平塚分会 浅沼分会長の開会挨拶で開催されました。

事業場並びに地区の安全衛生活動の推進に尽力された方々に対して各団体長より「安全衛生推進優良賞」の表彰が行われました。今年は神奈川労務安全衛生協会平塚支部として、21名の方(被表彰者は次頁)が受賞されました。おめでとうございます。

引き続き、陸上貨物運送事業労働災害防止協会 神奈川県支部平塚分会 八巻分会長より「大会宣言」が行われ、参加者全員により確認されました。

休憩をはさみ、特別講演として『実臨床による診断方法と予防治療』と題して医療法人社団倉田クリニック理事長の倉田達明様より正しい診断と病気にならない予防活動など講演が有り、改めて予防に対して重要性が認識ができた90分でした。

最後に、神奈川労務安全衛生協会平塚支部 菅原支部長の閉会の挨拶により、本大会を終了いたしました。

市光工業㈱　小島　記

『リスクアセスメント実践講習会』開催される

さる８月５日㈪、６日㈫の２日間、平塚支部教室に於いて、『リスクアセスメント実践講習会』が20名の受講者のもと開催されました。

講習会初日は開催にあたり、平塚労働基準監督署山崎安全衛生課長より、「労働災害の現状」について災害の実例から具体的にリスクアセスメントの必要性を説明して頂きました。続いて、安全衛生教育サポーター三瓶裕二氏による、「リスクアセスメントの知識と基本の習得」について講義と２題の演習が行われました。

２日目は「リスクアセスメントの導入にむけた手法の実践」が行われ、最後には各グループの発表会が催されました。

各受講者は２日間実践した内容を持ち帰り、それぞれの職場に於いて作業に適したリスクアセスメントを展開して「危険ゼロ」の職場を目指されることを期待します。

㈱コベルコマテリアル銅管　五十嵐　記

コラム　「海洋研究開発機構の見学会」

関西ペイント株式会社　**土肥 久美**

産業保健活動委員会主催の施設見学会を、６月28日に独立行政法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）で実施しました。工場や病院見学は先方の意向で参加人数の制限が生じますが、今回は一般見学も可能かつ受入れ人数にも余裕がある公的機関で実施できたので、初の試みとして全会員事業所に参加費無料で募ることができ、19名に参加して頂きました。

JAMSTECは、海洋から見た地球環境変動の解明、海底観測による地圏の構造と変動の解明、表層～深海底～地下圏に広がる生物圏の構造と役割解明など、地球を「海洋を中心とした一つのシステム」としてとらえ、様々な観測、研究、技術開発を実施しています。また成果等を社会に還元することで、人類の持続的な発展、安全安心の確保、社会経済の発展、知識の進化拡大に貢献しています。

敷地内も回り、高圧実験水槽・深海巡航探査機「うらしま」の実物・各種観測船の模型・深海生物等を見ながら説明を受けました。残念だったのは、有人潜水調査船「しんかい6500の実物大模型」が7/6～10/6の展示で上野の国立科学博物館に出張中のため、コックピットでの操縦士気分を味わえなかった事です。

建物の随所に、津波避難の案内・熱中症注意喚起・緊急時の連絡ルート・自衛消防隊組織図などが貼ってあり、訓練も行っているそうです。津波想定は0mですが、裏山にも避難用のロープが設置してあるそうです。

今回は特別に総務の方からも、健康管理体制・メンタル相談体制を伺う事ができました。

見学して先方の話を聞くだけでも仕事に役立ちますが、参加する事で他社の人と知り合えます。困った時に気軽に相談できるネットワークを作るためにも、今回のような機会を是非活用して下さい。（見学会を設定して下さった、金田委員長に感謝します）

平成25年度　第57回　平塚地区安全衛生大会　被表彰者名簿

（公社）神奈川労務安全衛生協会　平塚支部長表彰　（敬称略）　平成25年９月６日

事業場名	被表彰者名	事業場名	被表彰者名
守山乳業　株式会社	藪田　善行	株式会社　品川鐵工場	小田　美重子
日産車体　株式会社	西山　淳二	第一三共ケミカルファーマ　株式会社　平塚工場	長谷川　洋一
日産車体　株式会社	甲斐　昭彦	株式会社　ネツレンハイメック	仲田　厚久
横浜ゴム　株式会社　平塚製造所	清田　明	株式会社　山本海苔店　秦野工場	古谷　彰宏
横浜ゴム　株式会社　平塚製造所	大庭　直規	コバレントマテリアル　株式会社　秦野事業所	野川　光宣
東新工業　株式会社	岡﨑　雅樹	テクノ電気工業　株式会社	小泉　邦茂
日本エアー・フィルター　株式会社	冨田　真司	株式会社　太田鉄工所	小泉　圭子
神奈川中央交通　株式会社	戸畑　英孝	株式会社　巴商会　伊勢原営業所	小椋　秀則
高周波熱錬　株式会社　湘南事業所	中島　栄	株式会社　ムサシノ精機	木村　茂夫
田中貴金属工業　株式会社　湘南工場	菅原　尚登	株式会社　コベルコ マテリアル銅管	外山　敏
横浜ゴム　株式会社　平塚東工場	竹村　豊		

平成25年度　労務部会講習会

「弁護士に聞く！労務リスク対応」

本年度の労務部会講習会は、９月13日㈮（労安協）平塚支部にて34名の参加者を集めて開催されました。今回は花﨑浜子弁護士を講師に、労務人事担当者が知らないでは済まされない「懲戒解雇」について講演をして頂きました。人の人生を大きく変え、裁判になる可能性もある重要な業務ですが、細かいところはわからない事が多いのではないでしょうか。懲戒は「労働者の義務違反に対して行う」ので、事業者と労働者の契約がどうなっているのかが大切で、具体的には就業規則に定められているかが重要です。また、会社の外へ出してしまう「懲戒解雇」は、会社の中で行う処分とは全く別の次元となるため、慎重の上にも慎重を期する必要が有ります。例えば繰り返し注意をしても改めない場合は、本人の弁明の場を設けるとか、労組との事前協議を行い、客観的事実認定をしっかり行う事が大切になります。手続き中は神妙にしている対象者が首になった後に専門家の所に相談に行き、ガラッと態度を変えることは良くある事です。

「無断欠勤」「出向や転勤命令を断った従業員を解雇できるか」「暴力事件」「パワハラ・セクハラ」「勤務時間外の飲酒運転」など紹介して頂いたケーススタディは労務人事担当者にとって、どれも身近な問題であり、法の専門家の講演は意義有るものだったのではないでしょうか。

日鍛バルブ㈱　伊藤　記

■労働災害発生状況（労働者死傷病報告件数）

（平成25年8月末現在）

		製造業	建設業	運輸業	陸上・港湾貨物運送・取扱業	その他	計
平塚労働基準監督署	平成25年1月～8月	50	30	11	36	127	254
	うち死亡災害	0	0	0	0	0	0
	平成24年	99	74	20	53	209	455
	うち死亡災害	0	0	0	0	0	0
	平成23年	104	54	21	42	204	425
	うち死亡災害	0	0	0	0	0	0
神奈川労働局	平成25年1月～8月	594	484	198	487	1875	3638
	うち死亡災害	3	9	1	1	15	29
	平成24年	1126	907	361	860	3435	6689
	うち死亡災害	13	16	0	4	13	46
	平成23年	1122	914	335	832	3390	6593
	うち死亡災害	8	23	1	9	13	54

雑感　『はや32年』

田中貴金属工業㈱　平塚工場　**守屋 直人**

私は九州佐賀県からS55年に就職で上京し平塚に住むことになり早や32年、約10年間を独身寮で生活しました。当時寮の横が田んぼで、田植えの時期になると雨蛙と一緒に風呂に入った記憶が蘇ります。今では田んぼや畑が、公園や住宅地に変わり、当時の面影も薄れましたが、生まれ育った風景と似ていてホームシックにならずにすみました。

あれから32年を幸いに大病もせず、また転居を伴う転勤もなく平塚に根づいています。最初の10年(20代)はドライブとお酒で時間とお金を費やし、次の10年(30代)は結婚し妻に尻をたたかれ子育てに奔走。何かにつけ飲みニュケーションへ参加。後の10年(40代)は父親が亡くなり、母一人が田舎で暮らしており、帰省することが多くなりました。最初は飛行機での帰省でしたが旅費が大変で、ここ数年は車での帰省に落ち着きました。ただ20代の時のように予定通りに進まず、さすがに体力の衰えを感じています。昔は高速道路がつながっておらず、岡山・広島では国道２号線をひたすら南下、高速区間も含めて約1300㎞を15時間前後。今では高速道路もつながり((東名⇒名神⇒中国(山陽)⇒九州))1100㎞と短くなったが、16時間程度。それでもSAが充実し、ご当地グルメや公園の設置で気持ちが癒される場所が多くあり感謝です。この夏も天候や渋滞を気にしつつ、車での帰省にチャレンジ。持病の腰痛に悩みつつ体力勝負、ストレッチや飲み過ぎに気を付け体調管理に努めています。

さて、『アベノミクス』効果として、景気回復が報道されていますが、まだまだ実感出来ていません。これからも、健康第一に家庭も仕事も足元をしっかり見つめ、第2の故郷として平塚で過ごせたらと思っています。止め処もない内容になりましたが、『雑感』ということでご勘弁下さい。

「平成25年度神奈川労働局長奨励賞」受賞にあたって

株式会社古河テクノマテリアル

弊社は、1958年、平塚市に創立し、形状記憶、超弾性、熱起電力、電気抵抗などの高機能特殊金属製品と、ケーブルや配管等の幅広い防災製品を製造販売しております。

昨年８月10日に、第一種無災害記録(440万時間)を約13年かけて達成し、認証を受けました。これまでの主な安全衛生施策としては、①安全衛生委員会及び中央安全委員会(幹部社員)による安全パトロールを各1回/月実施　②ヒヤリ・ハット報告制度　全従業員　２件/年を目標　等を行ってきました。今後は、①設備本質安全化を目指した、経営トップも加わった活動チームの展開　②年々、重みを増してきたメンタルヘルス体制の強化　も加え活動していく予定です。

今回、このような栄えある賞を頂き、更なる前進にギアを入れて頂いたと思っています。今後とも、平塚労働基準監督署並びに神奈川労務安全衛生協会平塚支部の皆様方のご指導の程宜しくお願い申し上げます。

総務部　望月　記

編集後記

今年の夏は、本当に猛暑の日が多かった。特に、高知県四万十の最高気温41度には、大変驚きました。県内では、最高気温38.1度を、海老名市で記録しました。地球環境が変化しているのでしょう。

＊暑いといえば、熱中症です。統計資料によると、熱中症により入院した患者は、(治療のみで帰宅者除く)７～８月で1,048人になりました。増加傾向です、来年にむけて今から、発症しないよう準備しましょう。

＊北関東では、竜巻の発生による甚大な被害がありました。アメリカ中部からのニュースと勘違いしました。自然災害とはいえ、人命だけは大切に守りたいものです。

＊9月に入り、涼しい日があり、過ごし易くなりました。でも、2020年のオリンピック東京開催決定には、熱くなりました。7年後の開催に向けて、立派なオリンピックができるよう応援しましょう。

＊これからは、台風の季節になりますが、台風一過のように、すがすがしい日が続く事を願っています。

皆様の職場、家庭でも、事故の無い、安心安全な日々が続くよう祈ります。

㈱山川機械製作所　成田　記